

長谷文庫八頭高 蔵書千冊超す 生涯や功績も紹介「再評価を」 八芳園創業・長谷敏司氏思い継ぐ

2024年03月29日(金) 日本海新聞 本紙【地域3】 23頁 | 写有 | 825字 | 印刷 | 紙面イメージ

鳥取県立八頭高（八頭町久能寺）で民間の寄付をもとに購入した「長谷（はせ）文庫」の収蔵書籍が千冊を超えた。旧佐治村（現鳥取市佐治町）出身で高級宴会場「八芳園（はっほうえん）」（東京）を創業した長谷敏司（としつか）氏（1903～91年）の郷土への思いを引き継ぎ、長谷氏の長男で八芳園の現オーナー、収氏が約30年前から文庫への寄付を続けている。同校図書館では長谷文庫を通じて生徒や保護者に長谷氏の功績と故里を応援する姿を伝えている。（森原昌人）

図書館司書主任の上田千代さんによると、きっかけは1995年の同校創立70周年で、長谷収氏に講演を依頼したこと。当時は全日制普通科の通学区域が地域ごとに分かれ、長谷敏司氏出身の旧佐治村の生徒は八頭高に通っていた縁で、収氏が書籍の購入にと寄付を申し出た。以来、4回にわたり100万円ずつの寄付があり、本年度は153冊を購入した。

上田さんによると、30年間で長谷文庫の蔵書は優に千冊を超えるという。当初は分厚い百科事典や美術全集などをそろえていたが、近年は生徒に親しみやすい小説やコミック、画集などを購入。寄付で購入した書籍の背表紙には「長谷文庫」のシールを貼っている。

図書館ではこのほど、長谷敏司氏の生涯や功績、長谷文庫の経緯を記したコーナーを設置。図書館だよりで紹介し、図書館入り口や生徒玄関でも郷土ゆかりの先人をアピールしている。

上田さんは「育英奨学金の設立など郷土に尽くした長谷氏をもっと再評価してほしい。生徒や保護者にも知ってもらいたい」と話す。

地元鳥取市佐治町では長谷敏司氏の功績を顕彰する動きがあり、昨年は顕彰碑を再整備し、長谷氏を紹介した紙芝居と冊子が完成。長谷氏の顕彰に取り組むブラザ佐治の景観を活（い）かす会の田中精夫（よしお）会長（72）は「繰り返し繰り返し長谷文庫に寄付されていることに意義がある。郷土への強い思いを受け取り、子どもたちが将来、地域貢献してくれれば」と長谷氏の遺志の継承に期待する。

【写真説明】民間寄付で購入した「長谷文庫」や八芳園創業者の長谷敏司氏を紹介したコーナー＝八頭町久能寺の八頭高図書館

